

ユアサエボシ | でいかい

2025.12.20 (Sat) - 2026.3.7 (Sat)



Ebosi Yuasa, *The Boy*, 2024

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度、ギャラリー小柳では2025年12月20日（土）から2026年3月7日（土）の会期で、ユアサエボシの初個展「でいかい」を開催いたします。

ユアサエボシ（1983-）は、大学卒業後に就職した金融関係の会社が入社半年で倒産し、その後画家になることを決意して美術学校に進学したという異色の経歴を持ちます。フランス文学者・澁澤龍彦の著作などを通じてシュルレアリスムの世界に出会い、憧れの芸術家たちと同じ時代に生きたいという欲求から、やがて自らを「大正生まれの三流画家・ユアサエボシ」として位置づけ、当時の画風を模した絵画制作に取り組むようになりました。

ユアサが擬態する架空の画家・ユアサエボシ（1924-1987）は戦争を生きた世代に属しますが、重度のヘルニアのため出征はせず、疎開先で物資の欠乏に耐えながら日々を過ごしたという設定です。直接的な従軍経験こそなかったものの、エボシは時代の只中で「戦争」という現実には晒されていました。当時の多くの人々と同じように、時に勝利の報に安堵し、時に敵国を憎む感情を抱いたことでしょう。そうして時代の空気に流されながらも、ただ絵筆を握り続けました。その絵には、個人の思想や信条を超えて、「時代の感情」が静かに刻まれています。本展では、そんなエボシが残したとされる「戦争」にまつわる絵画を10点展示いたします。うち3点は、2025年に金沢21世紀美術館で開催されたグループ展「積層する時間：この世界を描くこと」で発表したもので、ほか7点は本展のために描き下ろした新作です。

《少年》に表されたのは、荒野に立つ一人の若い男の姿です。そのどこか虚ろな表情は、特攻服を着た若者を待ち受ける運命を暗示しているのでしょうか。茶色く濁った海の向こうには工場のような建物が霞み、ユアサは「少年が立つ側が彼岸（あの世）で、海の向こうが此岸（この世）だ」と語ります。実はこの少年のモデルは、ユアサが所有する戦時中に作られた土人形の玩具で、背景の草花や建物も、同時代あるいはそれ以前の絵画資料を参考に、組み合わせて描かれたものです。実際の日本美術史を振り返れば、1950年代頃には戦争の痛ましい記憶をとどめようと、傷つき、変形した身体を捉えた絵画が数多く残されています。この《少年》は、銃後の立場にあったエボシがようやく描くことができた「死者のいる風景」なのかもしれません。敗戦後の時間を生きる人々の内側に沈む痛みや重い沈黙が伝わってくるようです。

展覧会のタイトル「でいかい」は、この《少年》に描かれた土人形と濁った海に由来します。「泥の塊」と「泥の海」という二重の意味を持つこの言葉は、戦争に“行かなかった者”が見た時代の濁流と、そこから掬い上げられた記憶を象徴するものです。このほか、胸元にたくさんの勲章を輝かせながらも滑稽な顔を見せる《似非元帥》や、戦後の日本における健康至上主義を風刺的に表した《健康第一》など、多様な角度から「戦争の残響」を描いた作品を展覧します。

展覧会初日12月20日（土）の午後5時から7時までは、作家本人が在廊し、レセプションを開催いたします。また会期中には、ゲストを迎えたトークイベントも実施予定です。詳細は決まり次第、改めてお知らせいたします。

さらに12月25日（木）から4月2日（木）には、東京都現代美術館で開催される「開館30周年記念 MOTコレクション マルチプル_セルフ・ポートレイト」展にて、同館が所蔵するユアサエボシの作品が展示されます。本展では、ユアサの新作絵画や彼自身が蒐集してきた明治～昭和期の戦争資料なども紹介される予定です。あわせてご高覧いただけますと幸いです。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。
ご掲載の際にはご一報いただけますよう、お願い申し上げます。

ギャラリー小柳

GALLERY KOYANAGI

【広報用図版】

ご使用の際は、次ページにあるキャプションとクレジットラインを表記いただくようお願いいたします。
下記ご承知おきの上ご使用くださいますようお願いいたします。

- ・図版のトリミング不可
 - ・図版への文字載せ不可
 - ・図版の二次使用禁止、ご使用後は速やかにデータを破棄してください。
-

【図版 1】



【図版 2】



【図版 3】



GALLERY KOYANAGI

[キャプション 1]

ユアサエボシ

少年

2024 年

キャンバスにアクリル

162 x 227.3 cm

Ebosi Yuasa

The Boy

2024

acrylic on canvas

162 x 227.3 cm

[キャプション 2]

ユアサエボシ

似非元帥

2025 年

キャンバスにアクリル

53 x 45.5 cm

Ebosi Yuasa

Pseudo Marshal

2025

acrylic on canvas

53 x 45.5 cm

[キャプション 3]

ユアサエボシ

健康第一

2025 年

キャンバスにアクリル

145.5 x 145.5 cm

Ebosi Yuasa

Health Above All

2025

acrylic on canvas

145.5 x 145.5 cm

[クレジット共通]

© Ebosi Yuasa / Courtesy of Gallery Koyanagi

GALLERY KOYANAGI

【展覧会概要】

作家名：ユアサエボシ

展覧会名：でいかい

会期：2025 年 12 月 20 日（土）－2026 年 3 月 7 日（土）

[オープニング・レセプション：12 月 20 日（土）17:00－19:00]

開廊時間：12:00－19:00

休廊日：日／月／祝祭日 * 2025 年 12 月 28 日－2026 年 1 月 12 日は冬季休廊。

会場：ギャラリー小柳

東京都中央区銀座 1-7-5 小柳ビル 9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

アクセス：

東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅 7 番出口より徒歩 1 分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅 A-9 出口より徒歩 5 分

お問い合わせ：ギャラリー小柳

Tel: 03-3561-1896

Mail: mail@gallerykoyanagi.com

URL: <http://www.gallerykoyanagi.com>

Instagram @gallerykoyanagi

* 下記展覧会でも、ユアサエボシの作品をご覧ください。

展覧会名：「開館 30 周年記念 MOT コレクション マルチプル_セルフ・ポートレート／
中西夏之 池内晶子 弓形とカテナリー」

会期：2025 年 12 月 25 日（木）－2026 年 4 月 2 日（木）

開館時間：10:00－18:00（展示室入場は閉館の 30 分前まで）

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（2025/12/28－2026/1/1）

会場：東京都現代美術館 コレクション展示室

東京都江東区三好 4-1-1（本場公園内）

主催：東京都、東京都現代美術館（公益財団法人東京都歴史文化財団）

URL: <https://www.mot-art-museum.jp/exhibitions/mot-collection-251225/>

ユアサエボシ

1983 千葉県生まれ
 2005 東洋大学経済学部卒業後、
 商品先物取引会社に就職するも半年で倒産
 一転して画家になる決心をする
 2008 東洋美術学校 絵画科 卒業
 現在 千葉県在住

「大正生まれの三流画家・ユアサエボシ」に擬態し、当時のシュルレアリスムの画風で絵画制作に取り組む。巧妙に作り上げた小さな「嘘」を歴史の隙間に忍び込ませながら、美術の歴史や既存の価値観を攪乱しようと試みる。

個展

2025 「でいかい」 ギャラリー小柳（東京）
 2024 「生誕 100 年 ユアサエボシ展」 Yoshiaki Inoue Gallery（大阪）
 2023 「涯にて/ at the end」 Yoshiaki Inoue Gallery（大阪）
 2019 「侵入するスペクトル」 AKIO NAGASAWA GALLERY AOYAMA（東京）
 「曲馬考」銀座 蔦屋書店 アートウォールギャラリー（東京）
 「プラパゴンの馬」EUKARYOTE（東京）
 2014 「TWS-Emerging 2014/News paper collage project」
 トーキョーワンダーサイト渋谷（東京）
 2013 GEISAI#19 ガブリエル・リッター賞「ユアサエボシ個展」Hidari Zingaro（東京）

グループ展

2025 「開館 30 周年記念 MOT コレクション マルチプル_セルフ・ポートレイト」
 東京都現代美術館
 「積層する時間：この世界を描くこと」金沢 21 世紀美術館（石川）
 2024 「日本国憲法展 2024」無人島プロダクション／MISA SHIN GALLERY（東京）
 「Fukuzawa Re:birth 福沢一郎×平川恒太・ユアサエボシ・江上越」
 富岡市立美術館・福沢一郎記念美術館（群馬）
 「Gallery selection マーク・マンダース、トーマス・ルフ、杉本博司、ユアサエボシ」
 ギャラリー小柳（東京）
 「Revealed—3 つの個人コレクション—」横浜市民ギャラリーあざみ野（神奈川）
 「ONE SINGLE BOOK」ギャラリー小柳（東京）
 「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか？」
 ——国立西洋美術館 65 年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ」国立西洋美術館（東京）
 2023 「奈良・町家の芸術祭 はならあと 2023」こゑ 宇陀松山エリア（奈良）
 「中村裕太 | ユアサエボシ 耽奇展覧」ギャラリー小柳（東京）
 「やんばるアートフェスティバル 2022-2023」大宜味村立旧塩屋小学校（沖縄）
 「2022 年度 コレクション展 4：素材とあそぶ」高松市美術館（香川）
 2022 「Alter Ego」Noblesse Collection（ソウル）
 「Paprika」EACH MODERN、台北（台湾）

GALLERY KOYANAGI

- 「VOCA 展 2022：現代美術の展望—新しい平面の作家たち—」上野の森美術館（東京）
 「高松コンテンポラリーアート・アニエール vol. 10 ここに境界線はない。／？」
 高松市美術館（香川）
 「ACT (The Artcomplex Center of Tokyo) Vol. 4 接近、動き出すイメージ」
 トーキョーアーツアンドスペース本郷（東京）
 「奇想のモード 装うことへの狂気、またはシュルレアリスム」東京都庭園美術館
 2021 「CADAN ROPPONGI presented by Audi」六本木ヒルズ Hills Café / Space（東京）
 「still life 静物」ギャラリー小柳（東京）
 2020 「森-Deep Forest-」Yoshiaki Inoue Gallery（大阪）
 「3331 ART FAIR 2020」3331 Arts Chiyoda（東京）
 2019 「買える！アートコレクター展」MEDEL GALLERY SHU（東京）
 「I氏コレクション展 今どきアート 2020 全て初めて」
 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館（群馬）
 「東京インディペンデント 2019」東京藝術大学大学美術館 陳列館（東京）
 「ザ・プレミアム平成ショー」THE blank GALLERY（東京）
 2018 「シェル美術賞アーティストセレクション 2018」国立新美術館（東京）
 「パーブルーム大学附属ミュージアムのヘルスケア」
 常陸太田市郷土資料館 梅津会館（茨城）
 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2018」六甲山（兵庫）
 「Multi shutter」EUKARYOTE（東京）
 「ブラックアンデパンダン」BARRAK（沖縄）
 2017 「ゲンビどこでも企画公募 2017」広島市現代美術館
 「ground under」セゾンアートギャラリー（東京）
 「中之条ビエンナーレ 2017」（群馬）
 「第7回 新鋭作家展 二次審査プレゼンテーション展示公開」
 川口市立アートギャラリー・アトリア（埼玉）
 「第20回 岡本太郎現代芸術賞展」川崎市岡本太郎美術館（神奈川）
 2016 「Independent TAGBOAT ART FES」ヒューリックホール（東京）
 2015 「シブヤのタマゴ さよなら区庁舎」渋谷区総合庁舎（東京）
 「合同展」千葉市文化センター
 「第11回 世界絵画大賞展」東京都美術館
 2014 「3331 千代田芸術祭 2014 アンデパンダン展」3331 Arts Chiyoda（東京）
 2013 「シェル美術賞 2013」国立新美術館（東京）
 「GEISAI#19」都立商業貿易センター 台東館（東京）
 「ASIAN AGE III展」アートコンプレックスセンター（東京）
 「第9回 世界絵画大賞展」東京都美術館
 「TAGBOAT@Bunkamura」Bunkamura Gallery（東京）
 「タグボートアワード in 台北」ArtSpace 金魚空間、台北（台湾）
 「トーキョーワンダーウォール公募 2013 入選作品展」東京都現代美術館
 「第8回 タグボートアワード」世田谷ものづくり学校（東京）

GALLERY KOYANAGI

受賞歴

- 2018 第10回 絹谷幸二賞
2015 第13回 千葉市芸術文化新人賞
2013 第28回 ホルベイン・スカラシップ奨学生
GEISAI#19 ガブリエル・リッター賞
第9回 世界絵画大賞展 協賛社賞
第8回 タグボートアワード 青山悟賞

パブリックコレクション

高松市美術館（香川）
金沢21世紀美術館（石川）
東京都現代美術館